



琵琶湖・淀川流域圏の再生

— 20年間の活動報告 —

概要版

令和8年3月

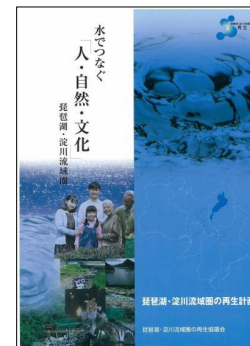
琵琶湖・淀川流域圏再生推進協議会

琵琶湖・淀川流域圏の再生 20年間の活動報告(概要版)

琵琶湖・淀川流域圏は、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良の二府四県に広がり、古くから水と人との密接なかかわりの中で、わが国有数の歴史・文化遺産を育み、都市と豊かな自然環境の共生のもとで繁栄してきた個性豊かな地域です。

「水でつなぐ“人・自然・文化”」を基本コンセプトとした「琵琶湖・淀川流域圏の再生計画」(以下「再生計画」)は平成17年3月に策定され、同年4月に設置された「琵琶湖・淀川流域圏再生推進協議会」が、琵琶湖・淀川流域圏を健全な姿で次世代に継承するため、この計画に基づいて様々な活動を行ってきました。

再生計画は概ね5~10年間での具体化を目的としていますが、より長期的(概ね20~30年間)な見通しを踏まえながら取り組むこととされています。20年間の節目を迎え、協議会として連携して取り組んできた主な取り組み等を取りまとめました。



「琵琶湖淀川流域圏の再生計画」
(平成17年3月策定)

経緯

2003.3.16~23

第3回世界水フォーラム
京都・滋賀・大阪-琵琶湖・淀川
流域を結んで開催-

2003.11.28

第6次都市再生プロジェクト
「琵琶湖・淀川流域圏の再生」決定

2005.3.30

「琵琶湖・淀川流域圏の再生計画」策定

2005.4

琵琶湖・淀川流域圏再生推進協議会 設立

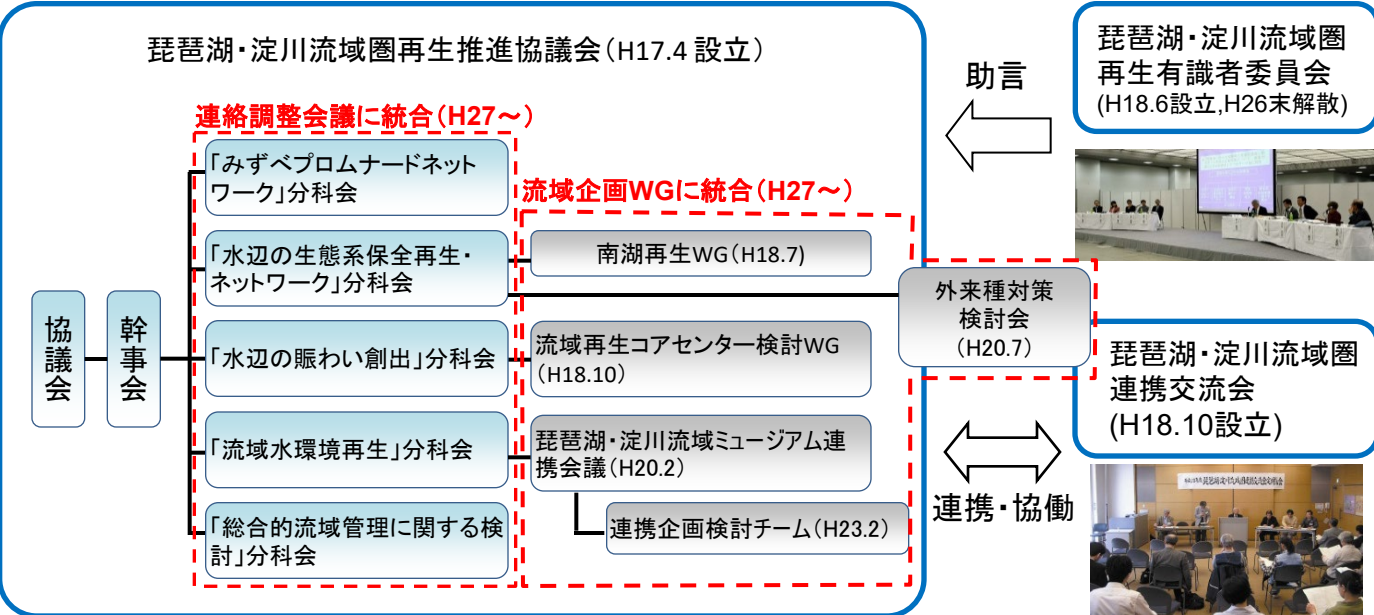
2015.3 10年が経過

2025.3 20年が経過

【5つの連携テーマ】

計画の代表的・象徴的なテーマで、計画推進ためのプロジェクト

- (1)みずべプロムナードネットワーク
- (2)水辺の生態系保全再生・ネットワーク
- (3)水辺の賑わい創出
- (4)流域水環境再生
- (5)流域連携

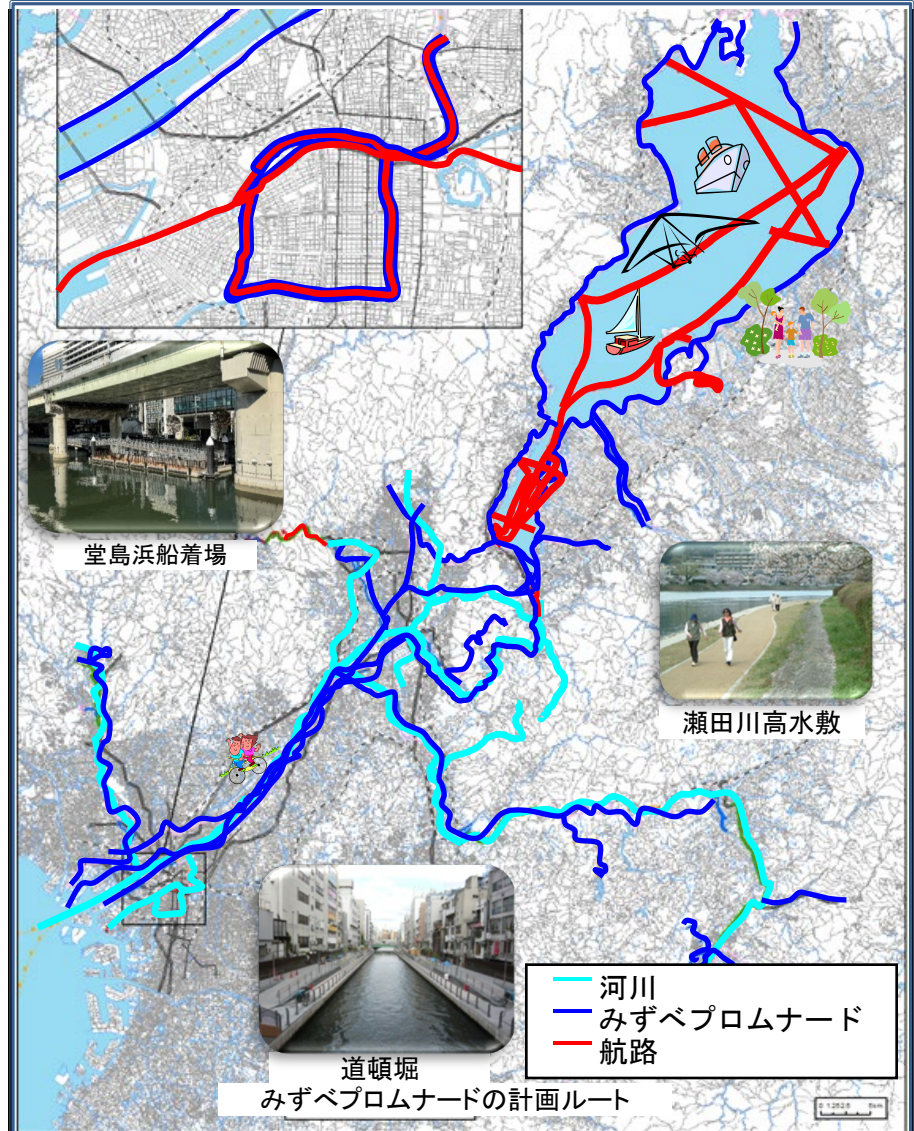


1. みずべプロムナードネットワーク

【目的】

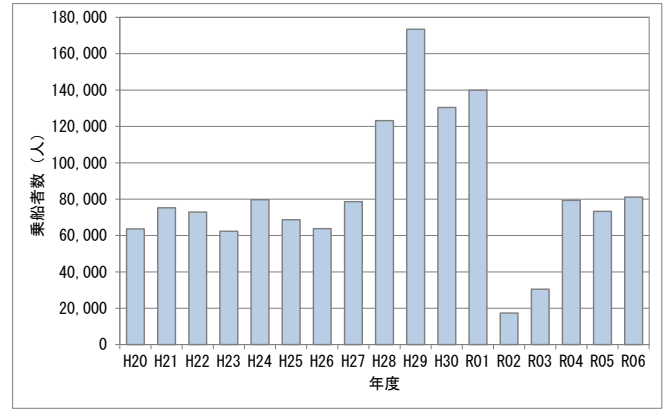
琵琶湖・淀川流域圏の水辺を、舟運・サイクリング・ウォーキング等でゆったりと味わい・楽しみ・学びながら、周遊できる水辺のネットワークを構築していきます。

1-1. ネットワークの構築



■ 「みずべプロムナード」による水辺への誘い

- ・ 陸路：「みずべプロムナード」総延長755.4kmのうち、657.7km（87%）を供用しました。（令和6年3月現在）
- ・ 水路：琵琶湖・淀川流域では64箇所（船着場）が整備されています。（令和6年3月現在）



大阪市内5箇所の船着場における乗船者数

■ 淀川舟運の復活に向けた取組

- ・ 淀川大堰開門の設置工事や、枚方～伏見の航路確保に向けた工事を実施しています。
- ・ 大阪～伏見間の舟運復活に向け実証実験等を行い、親水護岸（船着場）を整備しました。



淀川クルーズFESTIVAL

1. みずべプロムナードネットワーク

1-2. 「川の駅」、「湖の駅」の整備

■川の駅としての情報発信

- ・トイレや休憩所があり、常駐する案内人が地域の情報を提供する拠点として、16箇所の船着場やレストランなどに「川の駅」の表示サインを設置し、広域展開しています。
- ・「川の駅」で様々なイベントを実施しています。



「川の駅」(はちけんや)

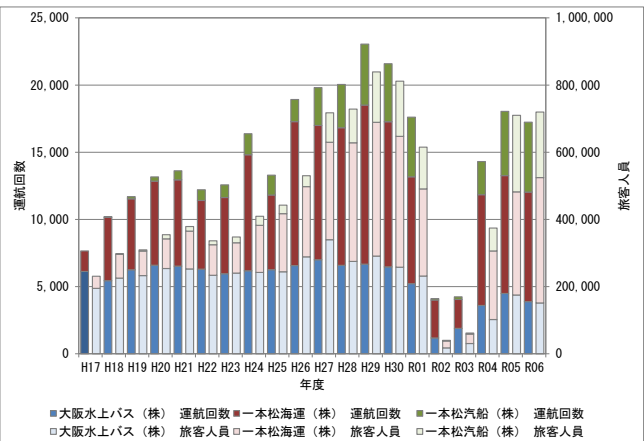


「川の駅」の案内板

1-3. ソフト面の取り組み

■橋梁のクリアランス等に対応した船舶の開発

- ・舟運事業者は、水域状況に応じた船舶を導入し、舟運ネットワークを広げています。また、近年増えている外国人への対応を継続し、令和7年に開催される大阪・関西万博に向けた実証実験等を実施することで舟運の魅力を高め、さらなる集客促進を図っています。



大阪市内河川 主要事業者運航実績

■水辺関係イベントの開催

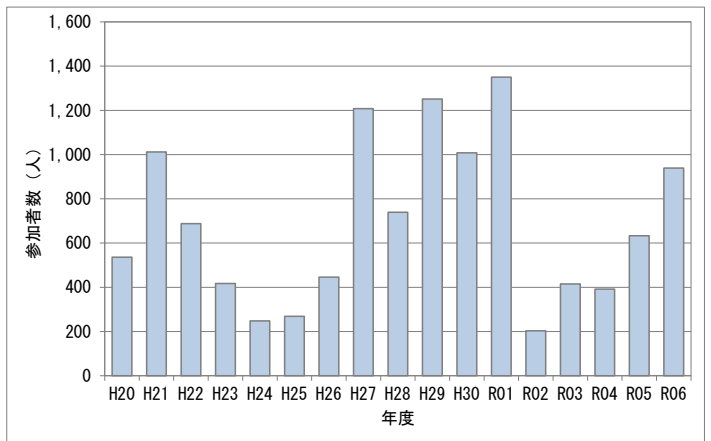
- ・「水都大阪フェス」を継続し、令和3年度以降は、「水都大阪ウィーク」を開催しています。また、にぎわい定常化に向けた「水辺のまちあそび」の実施、各種水辺のイベントと組み合わせたクルーズ等を開催しています。



水辺関係イベントの様子

■プロムナードの利活用

- ・平成29年度以降は、淀川三川合流域交流拠点施設「さくらであい館」を活用し、三川合流域における関係団体・組織間の連携を深めるための「淀川三川合流域地域づくり情報連絡会」を発足し、情報交換を行っています。
- ・マラソンやサイクリング、クルージングなど多彩なイベントの開催により、淀川の文化や自然環境について理解を深める等、淀川が持つ潜在的な魅力の再発見に繋がっています。
- ・イベントへの参加を通じて、水辺環境を生かした自然環境へのふれあいの機会になっています。



「蘇れ！！淀川の舟運」のイベント参加者数

1. みずべプロムナードネットワーク

1-3. ソフト面の取り組み

■多様な主体による水辺のクリーンアップ

- ・瀬田川及び猪名川等で地域住民やNPO等と連携し、クリーンアップ作戦を継続して実施しています。
- ・イベントへの参加を通じて、河川愛護に対する意識が定着しつつあります。



瀬田川クリーン作戦



猪名川クリーン作戦

1-4. 社会実験等としての取り組み

■民間事業者への委託

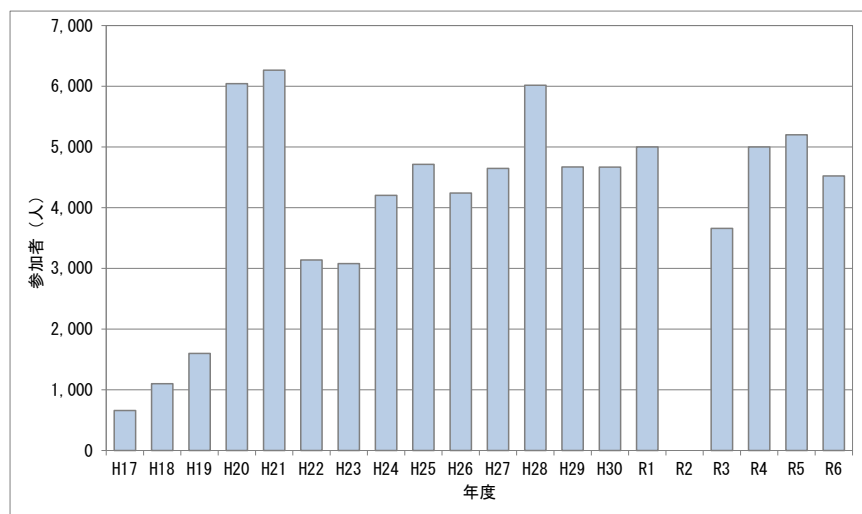
- ・平成23年度まで、道頓堀川においてイベント等の社会実験を実施し、道頓堀川遊歩道(とんぼりリバーウォーク)を整備しました。
- ・平成24年度より、民間事業者による河川敷地利用の制度化ならびに更なる規制緩和により、遊歩道の管理運営を公募し民間事業者に委託することになったため、社会実験を終了し、イベント等を本格実施しています。



北浜(北浜テラス)



中之島バンクス



名張クリーン大作戦の参加者の推移



若松浜

2. 水辺の生態系保全再生・ネットワーク

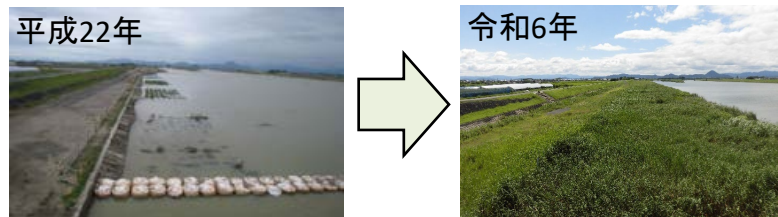
【目的】

淡水生物の宝庫である琵琶湖・淀川流域圏の多様な生態系を保全再生するため、希少種等の在来種の保全を視野に入れ、それらを取り巻く生物の生息・生育環境を保全再生していきます。

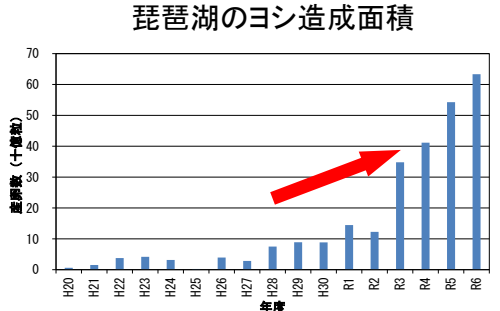
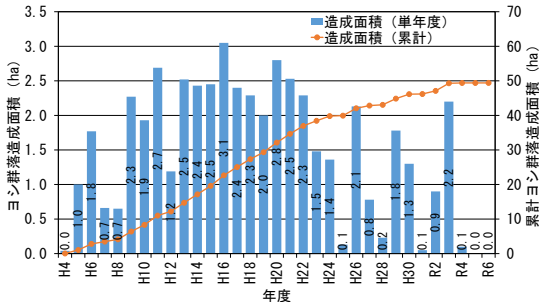
2-1. 生きものの多様な空間づくり

■再生したヨシ帯に魚が繁殖

- 淀川や琵琶湖の沿岸において、ヨシ帯を整備し、コイ・フナ類の産卵場を確保しています。



ヨシ帯の再生状況



ヨシ帯におけるコイ・フナ類産卵数の状況(長浜市丁野木)

■内湖の環境改善

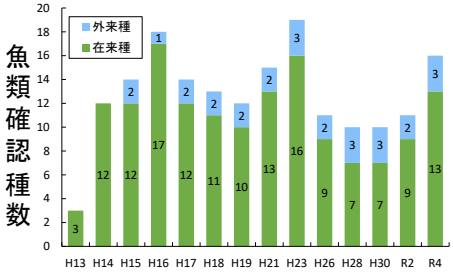
- 「内湖再生全体ビジョン(平成25年3月策定)」に基づいて、消失した早崎内湖の再生(20ha)や、西の湖、木浜内湖、平湖、柳平湖の保全のための浄化事業を実施しています。
- 西の湖湾奥部の浚渫は平成30年に完了したため、本湖での効果的な対策方法について検討しています。



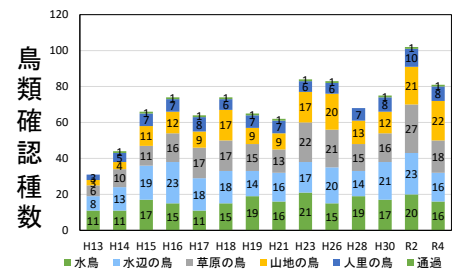
木浜内湖の植生による水質浄化



木浜内湖の浚渫



魚類確認種数



鳥類確認種数

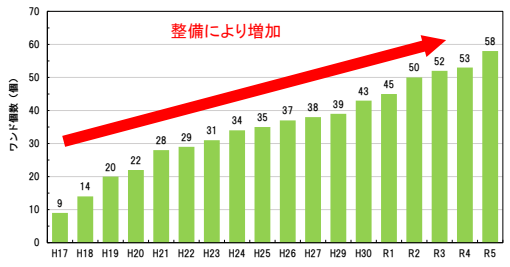
早崎内湖のモニタリング結果

2. 水辺の生態系保全再生・ネットワーク

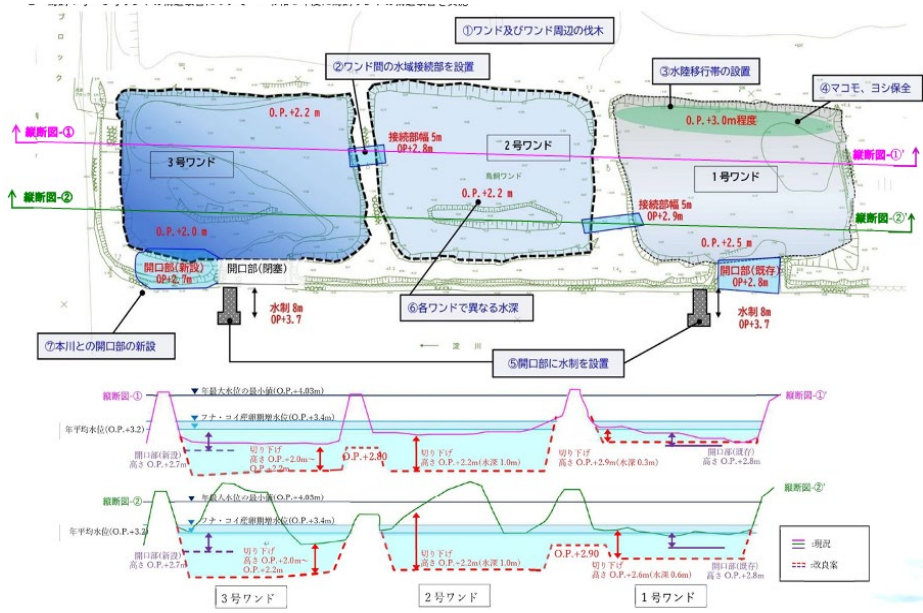
2-1. 生きものの多様な空間づくり

■ワンドの保全再生

- 唐崎地区、大塚地区、城北地区、三島江地区、鳥飼地区等で整備し、令和5年度までに58箇所ワンドが整備されています。



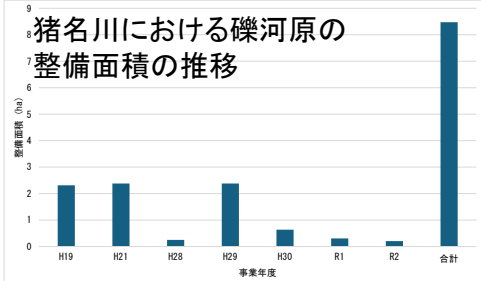
ワンドの保全・整備箇所数



ワンドの保全事例(鳥飼地区)

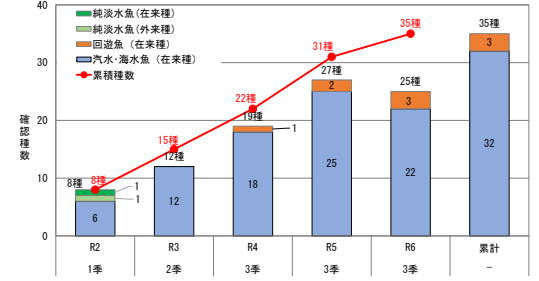
■礫河原の再生

- 猪名川の河川横断形状の修復に向け、約8.5haの礫河原を再生しました。
- NPO等の住民との協働により、外来植物対策が行われています。

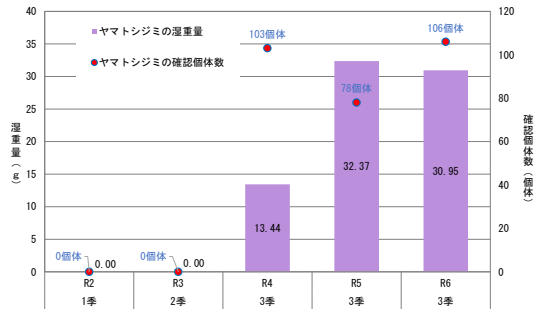


■干潟の保全再生

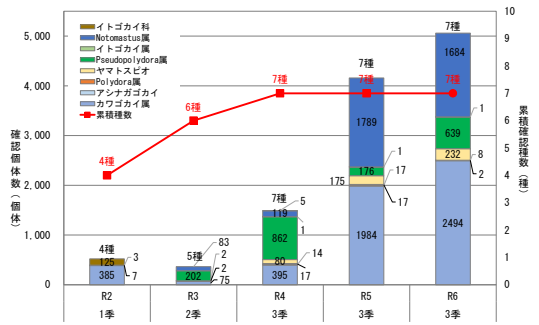
- 淀川の海老江、大淀、柴島地区において、約10haの干潟を保全再生し、モニタリング、淀川河口付近での再生試験を実施しています。



魚類確認種数の経年変化(西島試験干潟)



ヤマトシジミの確認個体数及び湿重量の経年変化(西島試験干潟)



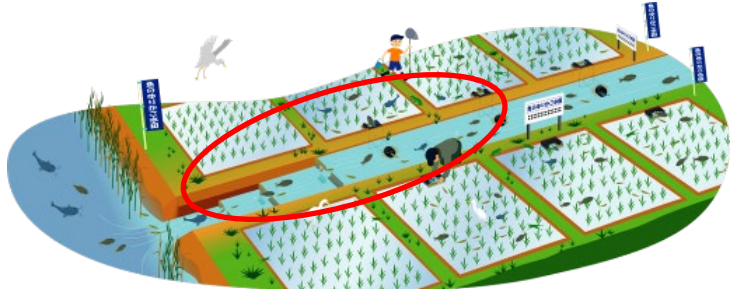
ゴカイ類の確認個体数の経年変化(西島試験干潟)

2. 水辺の生態系保全再生・ネットワーク

2-2. 生きものが出会うネットワークづくり

■水田・水路等と河川との連続性の確保

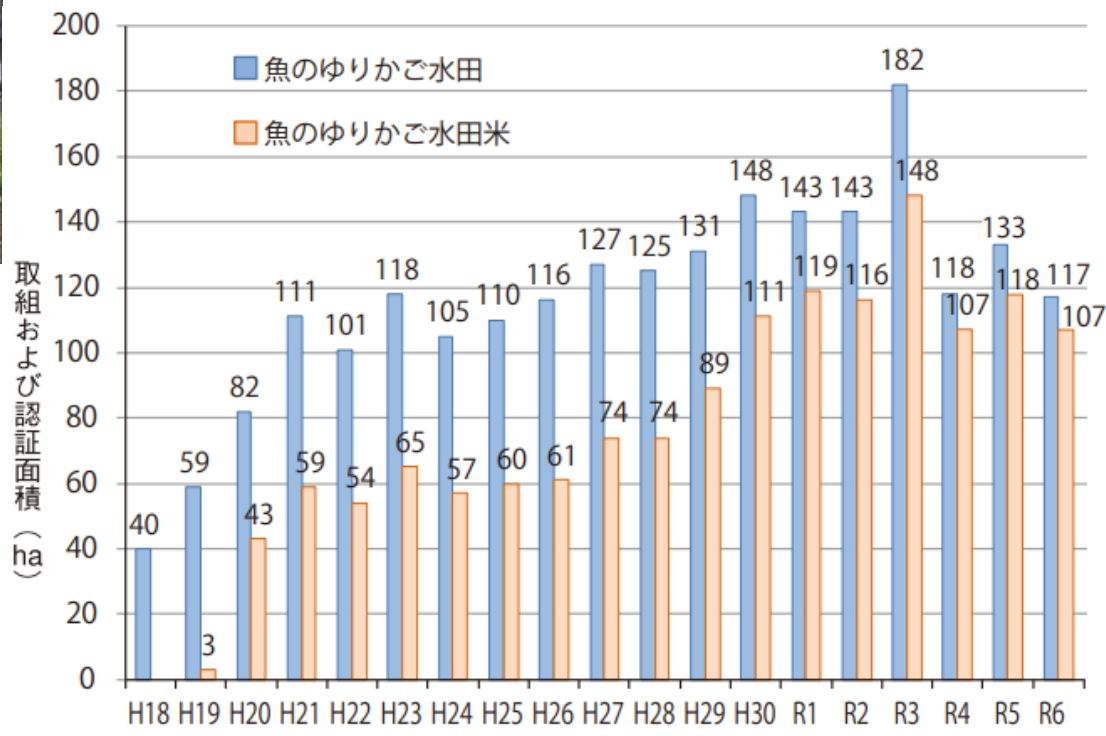
- 琵琶湖と水田との間を魚が行き来し、産卵繁殖していたかつての水田機能を回復させる「魚のゆりかご水田プロジェクト」など、豊かな生きものを育む水田の取り組み拡大に向けた普及啓発を行っています。
- 新たに取り組もうとする地域、課題を持っている地域に対する支援、魚道や水田内水路の設置等の指導を実施するほか、「魚のゆりかご水田米」のブランド力を高めるための統一パッケージデザインの作成や各地域で収穫される米の食味調査も実施しています。
- 木津川では、平成30年度に簡易的な水田魚道を遊水地内に一時設置して効果検証を実施しました。令和5年度には水田魚道実験施設を設置し、魚類の遡上が確認されています。



魚のゆりかご水田プロジェクトの整備イメージ



魚のゆりかご水田米
魚のゆりかご水田米ロゴマーク



魚のゆりかご水田取り組み及び認証面積の推移

2. 水辺の生態系保全再生・ネットワーク

2-2. 生きものが出会うネットワークづくり

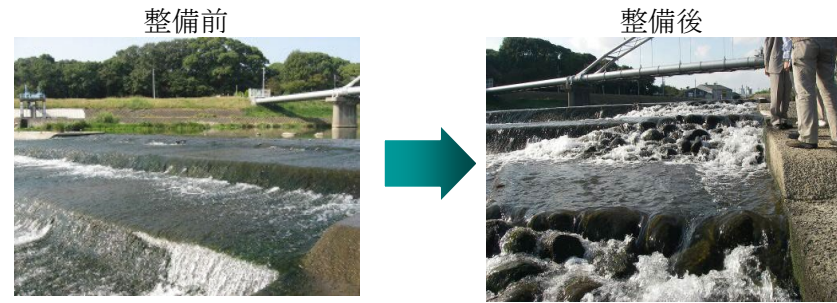
■魚がのぼりやすい川づくり
 ・各機関において、魚道の設置や改良を行い、川の連続性を確保しました。

魚道の設置・改良状況とその効果(抜粋)

河川名	改良した堰等	供用年度	モニタリング結果等	実施機関
淀川	淀川大堰	平成21年度	アユの遡上数が増加傾向 (平成25年: 30,706個体 →令和6年: 474,962個体)	淀川河川事務所
桂川	3号井堰	平成23年度	魚類の遡上数が増加傾向 (平成24年度: 66個体 →令和4年度: 1,222個体)	淀川河川事務所
藻川	大井井堰	平成20年度	平成22年度 アユ: 304個体、モクズガニ: 5個体、テナガエビ: 11個体の遡上を確認 平成29年 アユ: 71個体、ウキゴリ類: 3個体、モクズガニ: 48個体、テナガエビ: 118個体の遡上を確認	猪名川河川事務所
猪名川	三ヶ井井堰	平成23年度	平成24年度 アユ: 9個体、ウキゴリ: 201個体、モクズガニ: 25個体、テナガエビ: 134個体の遡上を確認 平成31年度 モクズガニ: 12個体の遡上を確認	猪名川河川事務所



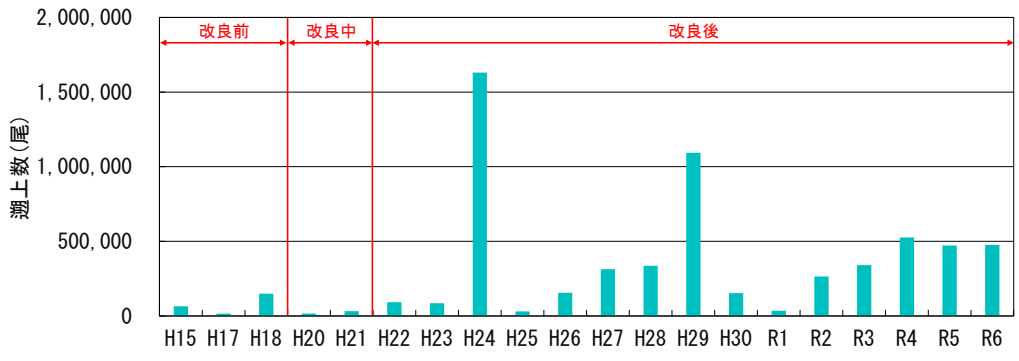
桂川3号井堰の改良例



大井井堰の整備例



三ヶ井井堰の整備例



淀川大堰アユ遡上期における遡上実態調査結果

2. 水辺の生態系保全再生・ネットワーク

2-3. いきいきと流れる川づくり

- 川本来の営みの復元**
- 琵琶湖・淀川流域にあるダムにおいて、河川環境改善のためダムからの放流量を一時的に増やしかく乱を起こす試み(フラッシュ放流)や、複数のダムで藻類の剥離更新効果の向上を図るため、フラッシュ放流とダム下流への土砂還元を行っています。
 - *本来、川は洪水により、土砂や生物を流す機能があります。ダム等の建設により洪水が少なくなると、私たちの生活が安全になる反面、川の流況は単調となり、自然環境においては、下流域で土砂の運搬量が少なくなったり樹木の繁茂したりと様々な弊害が生じます。
 - 天ヶ瀬ダムに堆積した土砂を下流河川に投入する土砂還元の取り組みを実施し、その効果検証を行っています。
 - 滋賀県立大学と共同で、河川環境を維持していくためのパンフレットを作成し、その内容に従い、浚渫工事等と併せて、バープエ設置や小わざ魚道状の石積みを行っています。



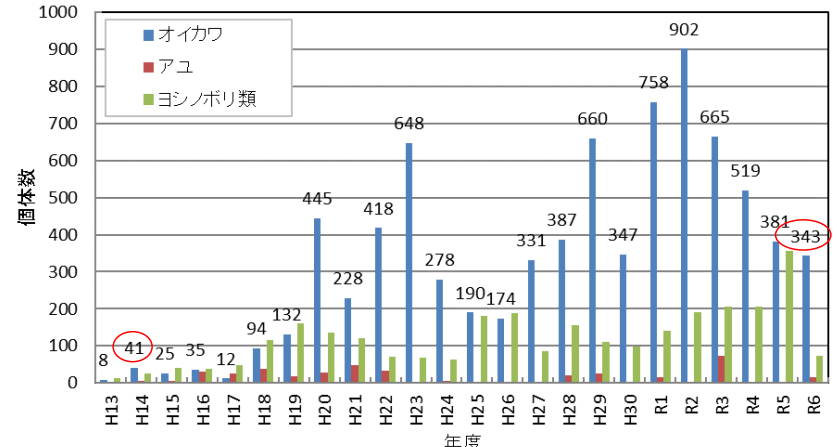
フラッシュ放流による河床(藻類の剥離状況)の変化 (新夏見橋地点)



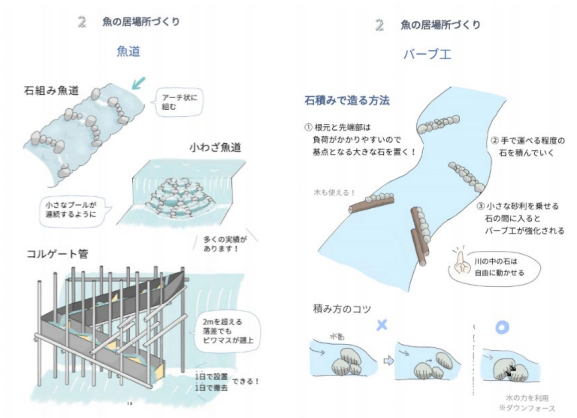
バープエ



小わざ魚道状石積み



ダム直下地点における魚類調査結果(一庫ダム)



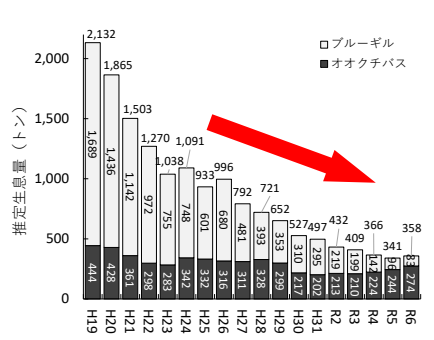
はじめての魚の居場所づくり

2. 水辺の生態系保全再生・ネットワーク

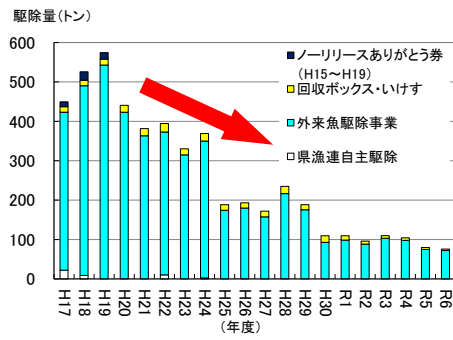
2-4. 琵琶湖・淀川流域圏ならではの種の保存

■外来種...琵琶湖でも駆除

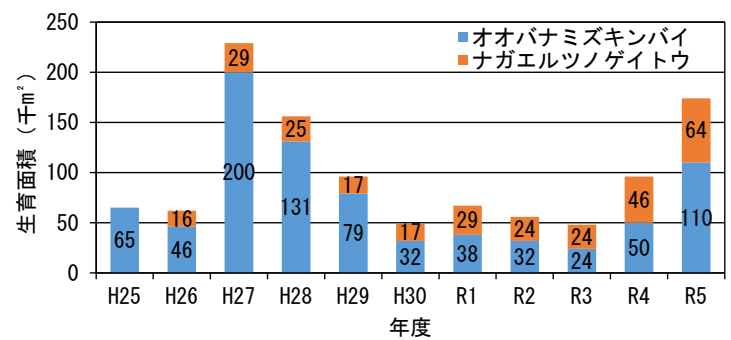
- 琵琶湖において、外来魚の駆除、回収ボックスやいけすによる回収、外来魚駆除つり大会の開催、有効活用処理を行うとともに、防除手法の実地検証や在来魚・外来魚の生息状況調査などの各種取り組みを実施しました。
- 琵琶湖およびその周辺水域でのオオバナミズキンバイ等の外来水生植物対策は、令和4年度以降は増加傾向ですが、駆除困難地での局所的な増加となっており、琵琶湖の水際や港湾等の他の水域に分布拡大するリスクが高い箇所においては、生育を一定抑制できています。



琵琶湖における推定生息量の推移 (ブルーギル, オオクチバス)



琵琶湖における外来魚駆除量の推移



外来水生植物の年度末残存面積 (琵琶湖)

2-5. ソフト面の取り組み

■琵琶湖岸や河川での環境学習や情報発信

- 琵琶湖岸や河川での環境学習や、洪水や土砂災害に備えるための出前講座の取り組み、河川における地域交流などの活動を推進するために必要な階段や斜路の設置などを進めています。
- 令和6年度から水辺での子ども向けの取り組みを「みずべのこ」と称して情報を発信しています。



流域治水出前講座



イメージキャラクター「みずべのこ」

2-6. 連携施策の推進

■自然豊かな芥川再生プロジェクト

- 芥川において自然豊かな水環境の再生を目指し、NPO、住民、行政が協働して芥川倶楽部を平成17年度に設立し、簡易魚道の設置、モニタリング調査、特定外来種駆除、清掃活動及び魚道整備の検討を継続的に実施しています。

調査年	実測数	推定数
H24	3,698 尾	11,000 尾
H25	1,838 尾	6,300 尾
H26	580 尾	2,300 尾
H27	580 尾	6,800 尾
H28	3,184 尾	17,000 尾
H29	4,366 尾	8,100 尾
H30	3,135 尾	7,700 尾
R1	4,668 尾	5,300 尾
R2	2,558 尾	1,700 尾
R3注	9,583 尾	11,964 尾

注: 令和3年の実測数及び推定数は速報値である。

市民参加による調査で確認されたアユ遡上数

3. 水辺の賑わい創出

【目的】

琵琶湖・淀川流域圏において、まちに潤いをもたらす「せせらぎの創出」、水辺にふれあい、楽しむことが出来る「親水空間の再生・創出」を図り、人々が集い、活気に満ちた水辺を創出していきます。

3-1. せせらぎの創出

- **せせらぎでまちなかに賑わいを**
 - 西高瀬川でせせらぎを復活させ、沿川にある公園と一体となった整備を実施し、導水事業及び三条坊町公園親水拠点が完成しました。
 - 堀川で第二疏水分線から導水し平成21年3月にせせらぎを復活させました。整備後は清流が復活し、地域住民が主体となって河川の維持を実施しており、「憩い」と「やすらぎ」の親水性のある水辺空間を生かしたイベントが関係団体や地元とともに開催されています。

- **様々な水利用**
 - 農業用水路の改修と併せて、子供たちの遊び場、冬の消雪、防火用水など、農業用水がもっている地域用水としての機能を維持・増進しています。
 - 農業用水に完全従属する小水力発電計画を啓発しています。
 - 大津市では、旧国鉄逢坂山トンネルから既存側溝に流れ込む湧水を市街地部に引き込み、せせらぎ水路を創出するための整備を実施しました。



導水事業及び三条坊町公園親水拠点の整備



堀川のせせらぎ水路の整備



農業用水を利用したせせらぎ水路



農業用水を利用した小水力発電



旧国鉄逢坂山トンネルの湧水を利用したせせらぎ水路

3. 水辺の賑わい創出

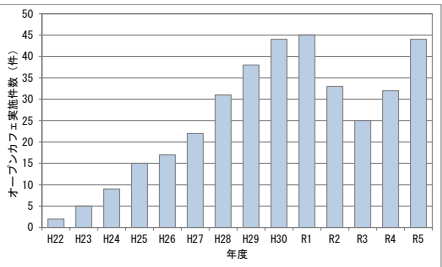
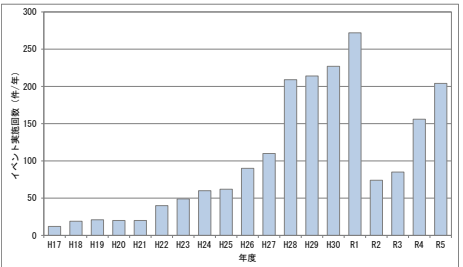
3-2. 親水空間の再生・創出

■大阪の水の都づくり

- 八軒家浜船着場を整備し、平成20年3月に供用を開始しました。平成21年8月には「川の駅 はちけんや」がオープンし、令和元年度まで天神祭の観覧事業を行いました。
- 平成24年度からは特別展示イベントを開催しています。
- 道頓堀川において、道頓堀川遊歩道(とんぼりリバーウォーク)を整備し、オープンカフェやイベント等を実施しています。
- イベント等の実施回数は概ね増加傾向を示しています。
- 道頓堀川遊歩道の管理運営事業者を公募し、さらなる賑わいの創出に向けた取り組み・工夫が実施されています。



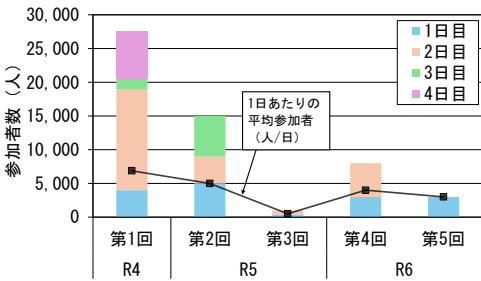
道頓堀川の整備状況



とんぼりリバーウォークでのイベント実施回数(左)とオープンカフェ実施件数(右)

■枚方の川に開かれたまちづくり

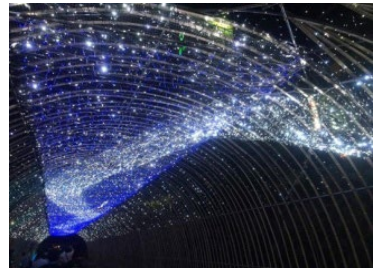
- 淀川と一体となった市民の交流拠点、淀川へのアクセス改善のための横断デッキ、停泊地等を整備しました。
- 舟運関連イベント、民間事業者が行う河川空間を活用したアクティビティ体験イベントへの協力・支援を行うとともに、「枚方宿街道菊花祭」や「枚方宿くらわんか五六市」を継続的に実施しています。



ロハスパーク枚方withよどがわアクティビティくらわんかの様子(左)及び参加者数の推移(右)

■水、人、地域が融合、淀川三川合流域地域づくり

- 平成19年に「淀川三川合流域地域づくり構想」を策定しました。
- 淀川三川合流域交流拠点施設「さくらであい館」を活用して関係団体・組織間の連携を深めるための「淀川三川合流域地域づくり情報連絡会」を発足し、情報交換を行っています。



「京の七夕」の開催の様子

3. 水辺の賑わい創出

3-2. 親水空間の再生・創出

■水都大阪のシンボルスポットの活用

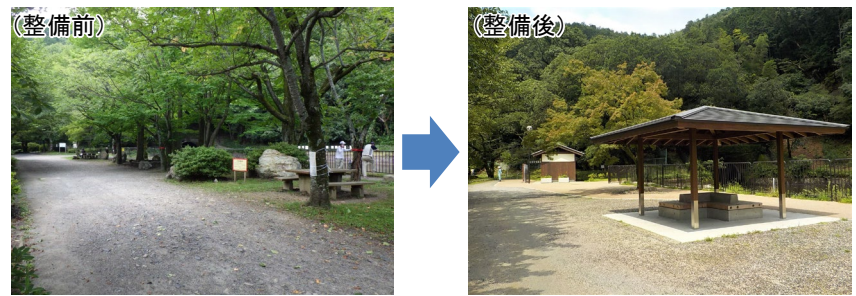
- 大川において、「大阪ふれあいの水辺づくり」として砂浜整備や河川浄化施設等を整備しました。
- パドルボードの体験会、リバーサイドヨガ、花見、地引網による生物調査等への活用を継続しています。



「大阪ふれあいの水辺づくり」の整備状況

■自然緑地の再整備

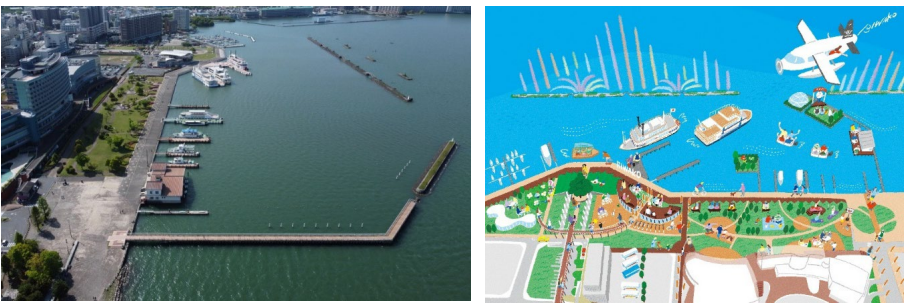
- 東山自然緑地では、平成28年度から令和3年度にかけて、「四季の花木を楽しめる京都の新しい花の名所」となるよう再整備を実施しました。



東山自然緑地(重箱ダム付近)における再整備状況

■大津港の活性化

- 琵琶湖の大津港において、日本一にぎわいのある「湖の港」を目指し、大津港活性化・再整備基本構想を策定しました。
- 取り組む施策を具体化し、官民連携でハード整備・ソフト事業の充実を図っていきます。



大津港活性化・再整備のイメージパース

■光のまちづくり

- 「光のまちづくり推進委員会」において「大阪光のまちづくり2030構想」を策定し、中之島周辺や八軒家浜、東横堀川等の水辺空間における広範囲なライトアップ整備を推進しています。



大阪光のまちづくり2030構想 対象エリア

4. 流域水環境再生

【目的】

琵琶湖・淀川流域圏の水環境に関する様々な課題に対して、森林地域や農村地域だけではなく、流域の恵みを楽しむ都市部が一体となり、豊かな水を育む森林・農用地の保全及び再生や、河川や湖沼のさらなる水質改善、安定した水量の確保を図り、健全な水環境を実現していきます。

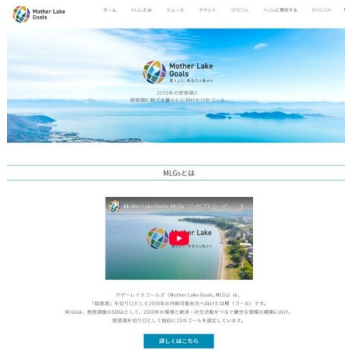
4-1 適正な水管理のための水環境改善計画の作成

■計画的な水環境の管理

- 猪名川では水環境交流会や水環境パネル展、水質一斉調査を実施しています。
- 木津川上流ではNPOを核として水質について一般住民への広報活動を実施するほか、「水質見える化マップ」を作成・公表しています。
- 大阪市では令和2年度に「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」実行計画を策定し、各種団体間のパートナーシップ構築や、水辺教室による水環境・プラスチックごみ問題の啓発活動等を実施しています。
- 滋賀県では、平成27年の琵琶湖保全再生法の成立を受け、平成29年に琵琶湖保全再生施策に関する計画を策定し、琵琶湖の保全及び再生に関する取り組みを推進しています。
- 令和3年度に「マザーレイクゴールズ(MLGs)アジェンダ」を策定し、MLGsをテーマとしたワークショップやMLGs学術フォーラム、みんなのBIWAKO会議等を毎年開催しています。



BIWAKO会議の開催状況



マザーレイクゴールズ(MLGs)のWEBサイト

4-2 「生命の水再生」アクションプランの実施

■森林の適正管理

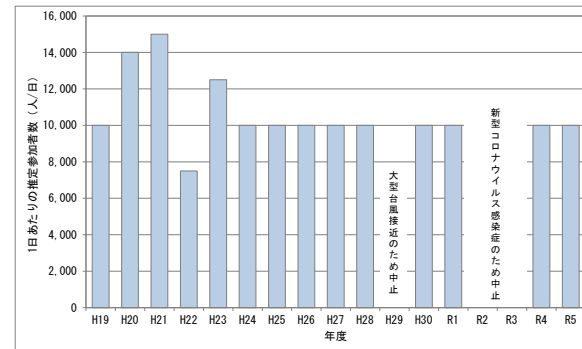
- 水源かん養機能の定量化、地質間での間伐作業等が水量・水質に与える影響の比較などの調査研究を実施しています。

■森林機能のPR

- 「水都大阪森林の市」等のイベント開催時にパネル展示等を行い、森林の持つ多面的機能の普及・啓発を行っています。



水都おおさか森林の市



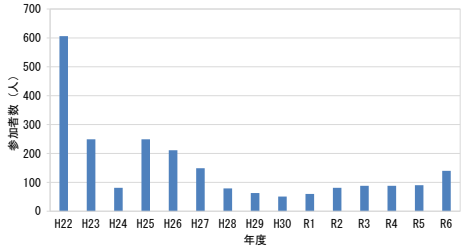
水都おおさか森林の市 参加者数の推移

4. 流域水環境再生

4-2 『生命の水再生』アクションプランの実施

■ 森林を育てよう

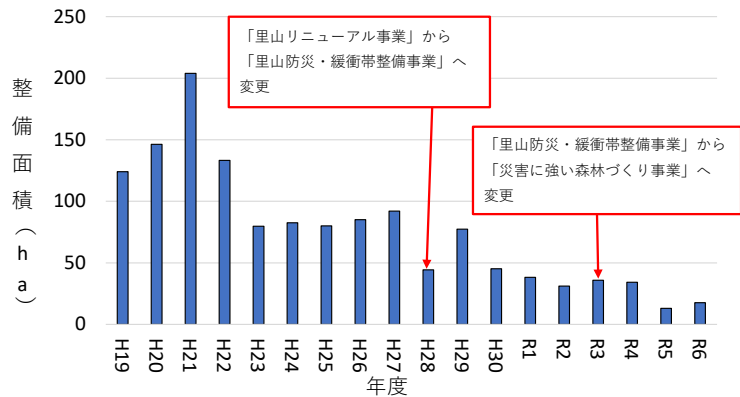
- ・ 箕面国有林において、多様な昆虫類が生息できる落葉広葉樹林「オオクワガタの棲める森づくり」への里山再生に向けて、NPO団体や地域住民とともに取り組んでいます。



オオクワガタの棲める森づくりの状況(左)と参加者数の推移(右)

■ 里山リニューアル事業

- ・ 滋賀県では里山整備を進め、令和4年度から里山の防災機能強化や野生獣の生息防止を目的とした整備を進めています。



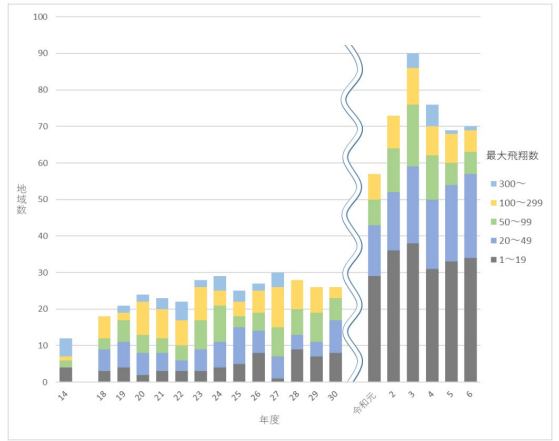
里山整備面積の推移

■ 農業用水による環境保全

- ・ 地域ぐるみで農地・農業施設の維持管理・保全及び景観保全を実施しています。
- ・ 水資源の総合的な保全のため、循環かんがい、反復かんがい施設を整備しています。

■ 赤野井湾をきれいに

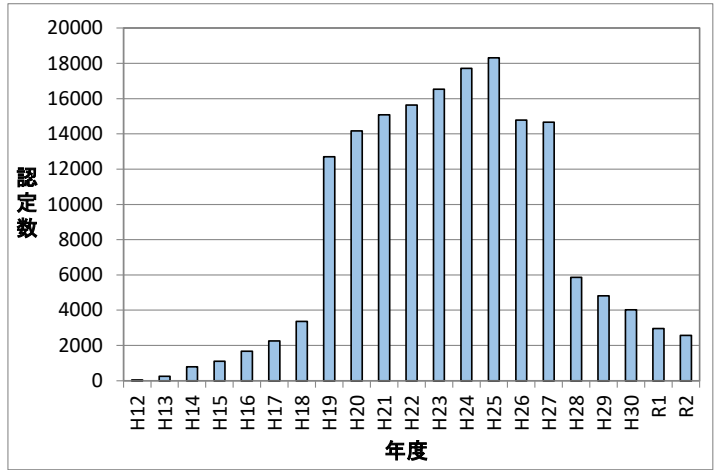
- ・ 令和3年度に赤野井湾流域流出水対策推進計画(第4期)を第8期湖沼計画に位置づけ、各取り組みを実施しています。



ホタル飛翔地域数(守山市赤野井湾)

■ エコファーマーの認定促進等(認定制度は令和4年7月廃止)

- ・ 環境保全型農業を推進するためのコンクールや「持続性の高い農業生産方式の導入の促進に関する法律」に基づくエコファーマーの認定促進等を実施しました。
- ・ 令和4年7月の「みどり法」施行に伴う廃止以降は、同法に基づくみどり認定の促進等を実施しており、化学農薬や化学肥料の低減を推進しています。



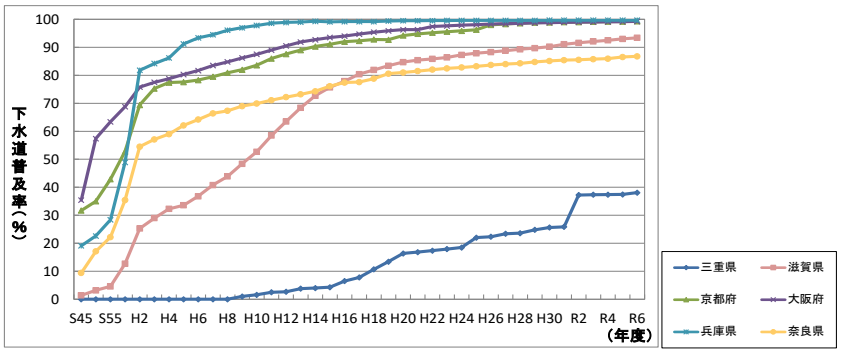
エコファーマー新規認定数

4. 流域水環境再生

4-2 『生命の水再生』アクションプランの実施

■下水道等の整備

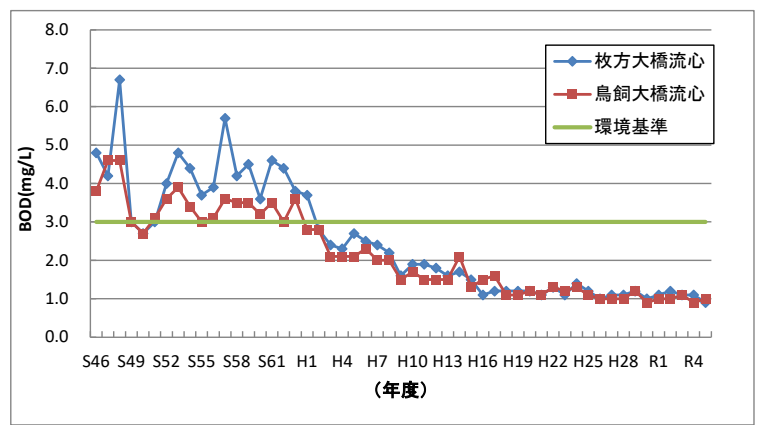
- 合流式下水道の改善や下水処理の高度化を継続して進めています。



琵琶湖淀川流域の下水道普及率

■琵琶湖・淀川流域の水質

- 琵琶湖流域では下水道等の整備により、産業系、生活系の汚濁負荷量は削減され、淀川本川の水質は改善してきています。



淀川のBODの推移

4-3 水と人とのつながりの再構築

■琵琶湖・淀川の「流域ミュージアム」化

- 南丹市及び亀岡市の総合防災訓練時に日吉ダムの役割等のパネルを展示し、地域の防災に関する情報を発信しています。
- 「森と湖に親しむ旬間行事」の一環として、天ヶ瀬ダムを観光資源として活用することを目的に、様々なイベントを実施しています。



親子で天ヶ瀬ダム探検ツアーの状況

■「水との復縁」運動の展開

- 地域の住民が地域の川を愛し、行政とともに手を取り合い、ふるさとの川として守り育てていけるよう、「ふるさとの川づくり協働事業」を実施しています。河川愛護活動には毎年約8万人が参加しており、河川堤防の除草作業等を実施するなど、官民連携で河川の維持管理を行っています。



ふるさとの川づくり協働事業の状況

5. 流域連携

【目的】

琵琶湖・淀川流域圏の各種課題に対し、地域間・主体間・分野間で連携した一体的な取り組みを継続性のあるものとするため、行政間の連携を推進する組織、市民・NPO・自治会等のネットワークの構築、また、これらを連携する組織を設置します。

■琵琶湖・淀川流域圏連携交流会

- 平成18年10月に「琵琶湖・淀川流域圏連携交流会」を設立しました。
- 様々な活動を通じて多くのNPO等が連携・交流を深めています。

■公益財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構

- 琵琶湖・淀川流域における水質保全に関する調査研究・研究助成などを行っています。
- 「飲める水遊べる水辺 次世代に」を活動テーマに掲げ、「遊んだり泳いだりするのに適した河川や湖にする」という目標を実現するために、行政や住民と一体となって取り組んでいます。



琵琶湖・淀川流域圏連携交流会の活動

研究助成成果報告会



こども水質保全活動 助成成果報告会



BYQ水環境レポート



(公財)琵琶湖・淀川水質保全機構の活動例

■琵琶湖・淀川流域圏再生有識者委員会(H26完了)

- 「琵琶湖・淀川流域圏再生有識者委員会」を平成18年6月に設置しました。
- 平成26年度まで、「琵琶湖・淀川流域圏再生有識者委員会および年次報告会」を毎年開催していました。
- 統合的流域管理の検討や外来種対策においても、助言をいただきました。



有識者委員会



年次報告会

6. 流域圏内の様々な活動を振り返って

■「いながわ体験フェスタ」で水環境をPR ～観察・工作・体験で猪名川の水環境を学ぼう～

猪名川における水環境の啓発と改善の取り組みとして、平成28年から“いながわ体験フェスタ”を開催しており、猪名川流域の子どもたち・学生による「いながわ水環境発表会」や、水質を調べたり、投網をしたりなど、様々な体験ブースを設置し、猪名川流域の方々には猪名川の水環境を勉強していただきました。(猪名川河川事務所)



いながわ水環境発表会



体験ブース

■めざせ、人が楽しみ、魚がよろこぶ川づくり！！ ～野洲川の自然再生～

鋼矢板護岸等が設けられ、魚がいきいきと暮らせるような川ではなくなった野洲川について、平成21年(2009年)に野洲川自然再生計画を策定し、河口部でのヨシ帯の再生、魚道の整備、アユの産卵場づくり等を実施しています。地域のみなさんとの連携・協働をすすめることで、人が楽しみ、魚がよろこぶ川づくりをめざしていきます。(琵琶湖河川事務所)



野洲川のあらたな魚道



地域の高校生によるヨシ刈り活動



地域のみなさんによるアユ産卵床づくり

■城北わんどをみんなできれいに！！

大阪市内にある城北わんど地区で「淀川わんどクリーン大作戦」を開催し、地域の方や団体・企業などにご参加いただきました。参加者からは「思ったよりごみが多くて驚いたが、きれいになってよかった」「来年も参加したい」といった声が寄せられました。

清掃後には、淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク(イタセンネット)による生物調査や外来生物の駆除活動も開催され、地域の皆さんとともにわんどの環境について考える、有意義な一日となりました。(淀川河川事務所)



清掃中の様子



駆除活動でとれた外来魚

■「水都おおさか森林(もり)の市2025」開催

令和7年10月26日(日)に「水都おおさか森林(もり)の市2025」を開催しました。森林の恵みや木の魅力にふれられる本イベントには、地域内外から多くの方が来場され、にぎやかな一日となりました。

森林の市は、森林が水や暮らしを支えてきた歴史、林業の役割、農山村地域の現状などを知るきっかけとなることを目指しています。今年も出展者と来場者の間で活発な交流が生まれ、森林・林業への理解を深める貴重な場となりました。(近畿中国森林管理局)



丸太切り



鳥取県 八頭町

6. 流域圏内の様々な活動を振り返って

■ウシガエル捕獲の取り組み

大阪府箕面市北部に位置する箕面国有林において、平成30年から「明治の森箕面自然休養林管理運営協議会」と協働で捕獲の取り組みを行い、在来生物の保護、生物多様性の保全の活動に取り組むとともに、市民の皆さまに参加いただくことで生態系を守る取り組みの意義を広めています。

平成30年からたくさんの市民の皆さまに参加いただいた結果、在来種であるトノサマガエル、ヤゴやミズカミキリなどの水生昆虫が多く確認されるようになりました。(近畿中国森林管理局)



■下物ビオトープ観察会～ビオトープの水だいたい抜く～

かつて琵琶湖の周りにたくさんあった池(内湖)本来の生態系の再現を目指して滋賀県と独立行政法人水資源機構が整備した下物(おろしも)ビオトープの観察会を開催しました。

秋の観察会は、池の水を抜いて、泥の環境改善や来春産卵のためにやってくる魚たちのために外来魚を駆除する目的で実施しており、参加者は泥んこになりながら池にいる魚や昆虫などを楽しそうに観察していました。(滋賀県)



令和6年度観察会の様子

■淀川・水の回廊の「今」を知り、その魅力を発信！！

川の駅はちけんやでは、2013年にスタートした「Hi ship! Project」を通じて、琵琶湖・淀川流域圏の魅力や歴史、防災など、様々な情報を発信してきました。

近年では、八軒家浜船着場から毛馬閘門・淀川大堰閘門(淀川ゲートウェイ)、十三船着場を巡るクルーズイベントを実施し、最新施設である淀川ゲートウェイなどを間近でご覧いただき、淀川・水の回廊の「今」を体験いただきました。(大阪府)



淀川ゲートウェイ



クルーズイベント

■関係者が連携して取り組む北摂地域の里山保全

北摂地域では、里山放置林を環境・文化・減災の観点から再生させる「先進的里山林」管理が、市民ボランティアにより活発に行われています。

2011年に策定された「北摂里山博物館構想」では、北摂の里山を自然の展示物と捉え、再生・保全・利活用を総合的に推進してきました。市民・行政・研究者・企業が連携し、「魅力づくり応援事業」「こども北摂里山探検隊」などを通じて、里山を保全するとともに、担い手育成や子どもの自然理解を進めてきました。

今後も、時代の変化に応じて新しい人と里山の関係を築きながら、豊かな地域環境を保全していきます。(兵庫県)



こども北摂里山探検隊

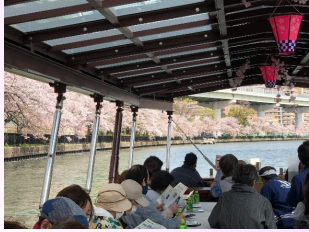


里山整備活動

6. 流域圏内の様々な活動を振り返って

■淀川の舟運でつなぐ！人・自然・歴史

明治時代に衰退した淀川の舟運は、近年、防災や観光を担う観点から見直されつつあり、現在は民間事業者により「蘇れ！！淀川の舟運」と「淀川浪漫紀行」が航行しています。八軒家浜船着場から枚方船着場を行き来しており、雄大な淀川を間近に感じながら橋梁をくぐったり、「パナマ運河方式」の毛馬閘門を通過したり、沢山の非日常体験が利用者をお出迎えします。また、令和7年3月に開通した閘室幅日本最大の「淀川大堰閘門」も淀川の舟運の新たな見所になると期待を寄せています。(枚方市)



蘇れ！！淀川の舟運
(一本松海運株式会社)



淀川浪漫紀行
(大阪水上バス株式会社)

■水辺で再発見！日野川から広がる自然の学び物

蒲生野(がもうの)考現倶楽部では、子どもたちが身近な水辺での活動を通して川遊びの楽しさを知り、地域の自然について学べるよう、滋賀県東部を流れる日野川水系で体験活動を35年あまり続けています。

日野川の源流から琵琶湖までを子どもたちと探検する取り組みでは、標高1,110mの綿向山に登り、川の始まりを自分の目で確かめます。また、上流・中流・下流それぞれで見られる魚や水生生物の違いを学び、琵琶湖ではカヌー体験を通して湖の広さを体感します。

身近な自然を水を通して再発見し、その魅力を世代を越えて伝えていきます。(NPO法人蒲生野考現倶楽部)



日野川河口付近で魚釣り



日野川中流で魚とり

■琵琶湖・淀川流域圏の市民活動を繋いできた20年

「琵琶湖・淀川流域圏連携交流会（略称：BYネット）」は、2005年4月に行政機関の協議・調整組織として設立された「琵琶湖・淀川流域圏再生推進協議会」と連携・協働して、「琵琶湖・淀川流域圏の再生計画」を推進するための民間団体として2006年10月に設立されました。

BYネットの活動は、ある特定の水辺というより琵琶湖・淀川流域圏における方々の活動をつなぐとともに、シンポジウムや見学会等を通して行政と民間との橋渡し役を果たしてきたところに特徴があり、2011年度に行った162団体への「河川の清掃についての調査」や2013年から数年間行った「カヌーでつなぐ琵琶湖・淀川流域圏」、2014年から行ったびわこコミ会議でのセッション担当などでは特に大きな成果を挙げる事ができました。

現在、BYネットが独自に進めている主な事業としては、毎月第2日曜にさくらであい館で開設している「琵琶湖・淀川流域圏情報交流コーナー」と概ね年3回行っているリレー見学会、見学会等で知りえた情報をまとめた冊子の発行があります。

さらに、さくらであい館との連携行事として、夏の「水辺の生き物探検隊」、秋の「講演会」、冬の「野鳥観察会」があります。

こうした諸々の取り組みが「琵琶湖・淀川流域圏の再生計画」の一助になるよう頑張っています。(琵琶湖・淀川流域圏連携交流会)



琵琶湖・淀川流域圏
情報交流コーナー



リレー見学会、見学会等で
知りえた情報をまとめた冊子

7. 活動のまとめ

7-1. テーマ毎の活動成果と今後の課題

(1) みずべプロムナードネットワーク

●活動の成果

水辺を利活用できる遊歩道や船着場等の整備、整備したプロムナード等を活用した各種イベントの開催、舟運の活性化等の取り組みが継続的に行われ、みずべプロムナードネットワークの継続的な活用が図られています。

●今後の課題

- 整備が進んでいない拠点整備エリア等における整備の推進、流域全体への拡大
- 流域圏の優れた文化性や地域毎の個性・風土等の特性を積極的に活かしたイベント等の開催や活動への展開
- さらなるみずべプロムナードネットワークの形成に向けた取り組みの継続

(2) 水辺の生態系保全再生・ネットワーク

●活動の成果

ヨシ帯や内湖、ワンド等の多様な生物の生息・生育空間を保全、再生するとともに、琵琶湖・淀川流域圏内の水田・水路等と河川との連続性の確保や河川の連続性の確保が進められ、魚類の産卵数の増加等の効果が確認されています。

●今後の課題

- 場に応じた多様な環境の復元・再生により、流域全体で生物の生息・生育空間の保全・再生を推進
- 流域の住民や活動団体等の協力を得ながら、外来種の防除の継続的かつ広域的な取り組みの実施・情報発信
- 様々な取り組みに対する継続的なモニタリングによる効果の発現状況の把握及び適切な対応

(3) 水辺の賑わい創出

●活動の成果

人々が水辺に集まり、水辺に活気を取り戻す施策、せせらぎの復活、水辺を活かしたイベントの開催、地域の資源を活かした催し等が継続的に実施され、効果が発現されています。

●今後の課題

- 地域の住民やNPO等と連携・協働を図り、親水空間の適切かつ継続的な維持・管理の実施
- 親水空間の整備による賑わい創出の効果が沿川市街地まで波及するような検討の推進
- 地域の資源等を活かしたイベント等の開催に資する親水空間の再生・創出・活用

7. 活動のまとめ

7-1. テーマ毎の活動成果と今後の課題

(4) 流域水環境再生

●活動の成果

適正な水管理に向けたモデル流域での様々な取り組みや、森林・農業の多面的機能をできる限り保全するための琵琶湖・淀川流域圏が一体となった水源かん養機能の保全等の取り組みが継続的に行われています。

●今後の課題

- 流域全体を視野に入れた統合的・一体的な水環境の管理等についての検討及び実施
- 琵琶湖における水質の継続的なモニタリング
- 地域住民及び次世代を担う子供たちの理解増進に向けた学校教育との連携

(5) 流域連携

●活動の成果

「琵琶湖・淀川流域圏再生推進協議会」、「琵琶湖・淀川流域連携交流会」の設置、並びに、同会が主体となった連携・交流活動等の取り組み等が行われ、効果が発現されてきています。

●今後の課題

- 活動実績及び社会情勢の変化等を踏まえた多様な取り組みの継続
- 「琵琶湖・淀川流域連携交流会」との連携方策に関する検討の推進
- 関係機関や様々な活動団体が相互に連携・協働しながら再生計画を推進

7. 活動のまとめ

7-2. 再生計画推進の成果と今後の方向性

(1) 20年間の活動の成果

- 推進協議会において関係機関のネットワークを形成し、様々な情報を集約・共有して相互に連携しつつ取り組んできました。
- みずべプロムナードや舟運ルート、「川の駅」等の水辺の賑わいや活力を創出する活動が行われました。
- 昔の自然の再生を目指してヨシ帯、ワンド、干潟等を整備し、多様な生物や生態系の回復が確認され、外来種の捕獲、防除等の継続的な実施により外来種の除去効果が現れているところも確認されました。
- 流域の水環境を再生するため、汚濁負荷量の削減、里山の保全再生活動や整備事業、地域住民と行政が連携した河川の維持管理事業の実施等、流域の水環境への理解や意識を高めるための様々な取り組みを実施しました。

(2) 今後の方向性

今後の取り組みにあたっては、社会情勢等の変化も加味しながら、以下に示した方針を踏まえて、全ての生物の営みが持続可能となる環境の再生と、安全で活力あふれる魅力的なまちづくりを行うため、引き続き再生計画の取り組みを推進していく必要があります。

- (1) 「みずべプロムナードネットワーク」等の拡大・活用
 - ・場の整備及び活用等による人と水辺の良好な関係の再構築のさらなる推進
 - ・グリーンインフラも考慮した「みずべプロムナードネットワーク」等の拡大・活用

- (2) 多様な水辺の再生と生態系ネットワークの形成
 - ・場に応じた多様な環境の復元・再生による流域全体での生物の生息・生育空間の保全・再生
 - ・「30by30目標」に貢献し、生物多様性の損失を止め、回復軌道に乗せることへの寄与
 - ・多様な環境がネットワークを形成することによる生態系ネットワークの強化

- (3) 人と水とのつながりの再構築
 - ・「かわまちづくり」や「河川空間のオープン化」等による河川空間を活かした賑わいの創出
 - ・地域住民や次世代が水と触れ合う場や機会の創出、重要性について理解を深める仕組みづくり

- (4) 地域住民やNPO、企業等との連携・協働
 - ・ネイチャーポジティブや民間企業の環境意識の高まり等を踏まえた多様な主体の参画、官民連携・協働に向けた支援及び仕組みの充実化

- (5) 再生計画の普及・啓発及び情報発信
 - ・本計画を多様な主体や多くの人に普及・啓発し、賛同・協力を得るための情報発信